

英米文化学会会報 第25号

SES NEWSLETTER

No. 25



英米文化学会第89回例会のお知らせ

標記の例会を下記の要領で開催します。

開催月日：平成7年11月18日（土）～19日（日）

日程：18日 15:00—17:00 研究発表 於 箱根の間

受付：午後2時より

19日：分科会

場所：アジアセンター 〒250 小田原市城山4-14-1 Tel 0465-22-6131

小田原駅（JR・小田急）よりタクシーで5分

懇親会 11月18日 会費 5,000円

事務局より連絡とお願い

◆第89回例会の宿泊について

上記89回例会の宿泊枠にまだ若干余裕がございます。宿泊ご希望の会員はお知らせください。追加の申し込みは11月5日までとさせていただきます。

◆各種の葉書について

年間数回は、葉書などがお手元に届いているはずですが、ご返事を頂けない場合も多く、事務処理上しばしば困難な状況に陥る場合が増えてまいりました。葉書などでの呼掛けのご返事などの記録は、会費未納者いわゆる幽霊会員の処理の場合にも使用する場合がありますので、ご参加の有無にかかわらず、必ずご返送くださいますようお願いいたします。

大会担当よりお願い

会員の皆様のお陰を持ちまして英米文化学会は再来年めでたく創立三十周年をむかえることとなりました。種々の事業を企画立案中ですが、記念事業の一環として韓国の英語教育事情を知る場として韓国での大会の企画がございます。現地での受入れ学会などとの交渉を始める前に、会員の皆様のご希望やご意見を伺いたくアンケート調査を実施いたします。お忙しい折、恐縮ですが是非ご回答を同封の葉書にてお寄せください。現段階での企画は以下の通りです。なお、ご回答は参加の意思確認を目的としたものではないことを念のため申し添えます。アンケート項目は本会報の最終ページにあります（また葉書にも同様の文が載っています）。アンケートのお返事は11月10日までにご投函してください。

大会期日：平成8年8月末 2日間（2泊3日）

場所：大韓民国ソウル市内

用語：大会中の用語は英語（韓国語の講演者ある場合には通訳がつく予定）

ディスカッション：日本、韓国の英語教育の現状

研究発表：発表タイトルは自由（発表者数は日韓両国からでるので、若干名）

費用：69,800円＋消費税（往復航空料金、ホテル代金、市内観光付、食事代含まず）

現地の学会などとの共同事業としての開催となりますので国際学会扱いになる予定です。

高崎文雄先生を悼む

英米文化学会副会長 高取 清

これこそまさに青天の霹靂とでも申しましょうか。一ヶ月に及ぶアメリカ研修を終えて成田に降り立ったとたんに家内から高崎先生の訃報を聞いて、我が耳を疑いました。そんなことがあるはずがない。間違いではないのか。しかし、残念ながら間違いではありませんでした。私はショックでしばらく口がききませんでした。いまだに先生から突然電話がかかってくるような気がしてなりません。大学時代から今日まで、三十数年重ねてきた交友関係が突然途切れてしまう悲しみは筆舌に尽くし難いものがあります。ここに、遅ればせながらこれまでのご交際と数々のご好意に対して今は亡き先生の御霊に心からお礼を申し上げたい気持ちでいっぱいでございます。

顧みますと、先生が英米文化学会に入会されてからはや十年になろうとしています。その間数回のご発表を通じて、先生の綿密にして正確なご発表に先生のお人柄がよく滲み出ていました。常に決して奢らず、飾らず、謙虚で誠実な態度と、何事においても徹底的に追求していく集中力にはいつも敬意の念を抱き、是非学び取ろうと努力しましたがいまだに学び取れないうちにお別れしなければならないのは誠に残念です。

英米文化学会に対する先生のご貢献は、ただご発表ばかりではなく、当学会が出版した『Step by Step』や『Word Bank』などの参考書の執筆編集に豊かな学識とご経験とを活かしてご尽力くださったことなど多大なものがあります。ここにそのご貢献に対して会員一同とともに心から感謝いたします。また、発展途上にある英米文化学会にとって、あらためて申すまでもなく、高崎先生は貴重な存在だったのです。これからますます様々な面でご活躍を期待していた矢先に不偏の客になられてしまったことは、当学会にとって大きな損失でございます。誠に残念ではございますが、今はただ先生にはどうか安らかにお休みくださいとお祈り申し上げるばかりです。願わくば、どうかこれからもご家族や友人、それに英米文化学会の行く末を永久にお見守りください。 合掌。

(昭和女子大学英語英文学科助教授で本学会会員であられた高崎文雄先生は本年8月14日逝去されました。享年59歳。 中村 肇)

第89回研究発表レジメ

1、男女の directive 選択とその決定要素

赤堀 志子 (昭和女子大学大学院)

司会 小川 喜正 (昭和女子大学)

言語学者の Susan Ervin-Tripp は、"Is Sybil there? the structure of some American English directives" の中で、アメリカ人が directive をどのように使用しているのかを調査した。directive の種類を6つに分け、それぞれ、どのような状況でどの directive が使われるのか、また、どの directive を使うのかを決定するのに、どのような要素が関わっているのかを研究した。その directive を決定する要素の中に、性別も含まれているが、Susan Ervin-Tripp は、性別と directive との関係について特にふれていない。そこで、本発表では、男性と女性が、男性・女性の友人に対してどのような directive を使うのか、その違いは directive を決定する要素とどのような関係があるのか、考察していきたい。

2、『シンペリン』論

---イアーゴウとの比較に見るヤーキモーの無動機の悪意---

福島 昇 (日本大学)

司会 小林 正弘 (拓殖大学)

ヤーキモーの悪意の動機とは一体何なのか。ヤーキモーはフィラーリオが述べているように身分も高く財力もある常識豊かな紳士である。社会的に差別されたり迫害されたりしてもいい。ポステュマスとイモーゼンによって何か不利益を被ったわけでもない。このように考えるとヤーキモーの動機はあいまいであり薄弱である。ポステュマスとイモーゼンを苦しませ、それを見るのが楽しみとしかいいようのな

いものがヤーキモーを動かしている。

イアーゴウの特徴も他の悪役とは異なり、悪事を働く動機があいまいであり薄弱であるということにある。人を幸福の絶頂から不幸のどん底につき落とす快感、悪の快感としかいいようがないものがイアーゴウを動かしている。このようにヤーキモーとイアーゴウの悪意は類似しているけれども、その違いを解明したい。

3、*The Merchant of Venice* と改作 *The Jew of Venice*

石塚 倫子 (岡崎学園国際短大)

司会 山根 正弘 (創価大学)

王政復古とともにロンドンに劇場が再開されると、他の劇作家による Shakespeare 作品の改作がしばしば上演されるようになる。*The Merchant of Venice* の改作は、1701年 *The Jew of Venice* (George Granville 作) として新たに登場し、たちまち人気作品となる。この改作のプロットは *The Merchant of Venice* とほとんど変わらないが、劇の性質はかなり異なる。たとえば、Shylock は喜劇的で低俗な株式仲買人 (stock-jobber) に変身し、一方、当時の名優 Betterton 演じる Bassanio は、Shakespeare 作品よりも英雄的存在になっている。また、改作の劇中には新たに仮面劇が挿入され、スペクタクルとしての要素が加味されている。

この発表では両者を比較し、改作の意味を時代背景を視野に入れながら検討したい。

分科会活動状況報告

1、第一分科会

出版 (『たたかう性---英米文学作品におけるヒロインたち』(仮)) に向けて、具体的に活動しています。これまでの原稿を踏まえて、会員が各自の原稿を手直ししている段階です。執筆者は、高取、佐久田、須田、相良、五味田、君塚、吉田です。(吉田俊実)

2、第二分科会

昨年末より、マルコム・ブラッドベリー著『現代アメリカ小説』(オックスフォード大学出版局、1992年) の翻訳を進めています。最初に第二次世界大戦以後の部分を出版し、その評判をみてから、それ以前の部分に取りかかることに決めました。これからの予定は、本年末までにドラフト原稿を作成し、来年3月までに完成原稿を提出し、来年夏に出版、ということを目指しています。全員はりきって取り組んでいます。(佐藤成男)

3、第三分科会

9月27日(水)に会合を開き、来年度出版を予定しているシェイクスピア作品研究論文の検討、及び文献の情報交換をしました。すでに書き上げた前半分の論文内容を細かく検討し、後半分の論文でまだ仕上がっていない作品の執筆スケジュールの調整を行ないました。後半部分の論文は1月末日までに予定作品分をすべて仕上げ、その後、論文全体の内容を検討し、統一を取るための調整作業に入る予定です。

次回は、11月18日~19日の例会の前後の時間を利用して行なうことにしています。(門野 泉)

4、第四分科会

本年度は Listening ability を中心テーマにすえ、会員各自がそれに関連したそれぞれのテーマを出して研究を進めています。月一回の例会ではお互いの研究に関しての意見や助言、資料の交換を行なってきました。来年にはそろそろ今までの研究を本にまとめて出版したいと(未定の)予定をたてております。

次回は、10月29日(日)の予定です。会員は石田、石井、一瀬、伊東、太田、川口、実積、中野、生内、平川、藤田です。(藤田牧子)

5、第五分科会

9月30日(土)に会合を開き、越智敏之氏より「ストリート・ギャング(アメリカ)の変質」について

